

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：みつる保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：松浦 多恵子	定員（利用人数）：119名
所在地：〒230-0048 横浜市鶴見区本町通4-175-3	
TEL：045-501-6274	ホームページ： http://mitsuru-hoikuen.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2012年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人のぞみ	
職員数	常勤職員：18名 非常勤職員：11名
専門職員	（専門職の名称）：名
	保育士：21名 栄養士：1名
	調理師：2名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	乳児室1室 多目的ホール1室
	2歳児室1室 調理室1室
幼児室（3歳～5歳）1室	屋上園庭

③理念・基本方針

<保育理念>

保育を必要とする全ての子ども用最善の利益を考慮し、安心・安全・安定した環境のもと、健やかな子どもを育てることを目指します。さらに、保護者及び地域の皆さまと協力しながら、子ども達の育ちを推進し、信頼できる園になるよう努めます。そのために、職員は資質向上を目指し、知識の獲得や技術の研鑽に励みます。

<基本方針>

礼節を重んじ 自立心を育てる たくましく こころ ゆたかに

④施設・事業所の特徴的な取組

<みつる保育園の特徴的な取り組み>

1. 子ども一人ひとりの自主性を重んじ、安心・安全・安定の環境のもと子どもが「やってみよう」と思う保育を展開していきます。
2. 年間を通して裸足保育を推奨し健康な体作りを目指します。さらに年少児から専任講師により体操の指導を受け、身体を動かすことの喜びを知ります。年中児からは、楽器にふれあい、年長児になるとマーチング・和太鼓を通して共同性や達成感を味わうことができます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年4月15日（契約日）～ 2021年2月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2015年度）

⑥総評

【施設・事業所の概要】

●みつる保育園は、昭和31年に開園された地域と共に歩んできた歴史ある保育園であり、平成19年に現理事長が園長として就任し、平成24年には新園舎建築に伴い、「社会福祉法人のぞみみつる保育園」として開設されました。園の名称である「みつる」は、鶴見区の下野谷・本町・汐入町と交流のある3つの町の「三鶴」に由来し、「みつる保育園」と命名されました。園舎が新築されるまでの間、閉校となった横浜市立鶴見工業高校の体育館で子どもたちと園生活を送る中、付近の住民から温かく見守られ、協力も多くいただきました。本町の新園舎建築現場では「いつ戻ってくるの？」と近隣の方々から待ち望まれ、温かい人情のある地域で「みつる保育園」は育まれてきました。また、地域は近隣同士の交流が深く、子どもたちは地域全体で愛情と共に成長しています。

●園児定員数は119名であり、0歳児定員9名、1歳児から各年齢共22名の定員であり現在、在籍児童数116名を預かっています。園舎は、落ち着いた緑を基調とした色合いの3階建て、全室バリアフリーが施され、エレベーター、床暖房を1階、2階に設備し、屋上には広い園庭を確保しています。建物3階部分は、幼児室（3歳児～5歳児）であり、2階は乳児室・2歳児室を設け、1階はクラス合同で活動できる広いスペースを確保し、多目的ホール（地域子育て支援）として活用しています。玄関を入るとのびのびとした開放感と自然の木の風合いがやさしさを醸しています。調理室は園舎入口から見えるように工夫され、食育に力を入れている様子が伺えます。玄関左の壁面は保育方針が描かれた煉瓦が張られ、その重厚な趣が歴史ある園を物語ります。さらに、大きな海水魚の美しいアクアリウムが設置され、子どもや保護者等を和ませ、豊かな感性を育む施設環境を備えた保育園です。

【みつる保育園の保育方針】

みつる保育園は、昭和31年に先代が開園した保育園であり、2代目の現理事長（園長）も伝統を継承し、「礼節を重んじ」なる文言の「礼節」を大切にして保育を行っています。「まず子どもありき」を園是とし、「礼節を重んじ 自立心を育てる たくましく ところ ゆたかに」を園の保育方針としています。保育園として66回目の卒園児を送り出し、現在では親子3世代に亘って入園する家庭も多く、地域に深く根ざしている保育園です。職員も経験豊かな経験値の高い人材が多い中、中堅職員・新人職員と行事を通してコミュニケーションが図れるよう配慮し、働きやすい楽しい職場作りを目指しています。周辺地域は外国からの移住者が多く、保護者・子どもも外国籍の方が在園しており、多様な文化に対応できるよう工夫しています。また、保育の特色の1つとして「裸足保育」を推進し、活動ではマーチング（鼓笛隊）、和太鼓を導入し、運動会ではこれまでの成果を保護者に披露し、立派に成し遂げる5歳児の姿は小さな子どもたちの憧れの的になっています。

◇特に評価の高い点

1. 【地域・保護者との良好な関係】

●みつる保育園は地域に密着した歴史ある保育園であり、保護者との関係は良好で、保護者会も年間4回実施され、保護者と園で率直な意見交換が成されています。新型コロナウイルス感染症の影響下の12月には対策を徹底した上で「お遊戯会」を開催し、演目で

は保護者の要望を取り入れる等、保護者と共に子どもを育む連携が上手く機能しています。利用者アンケートでの保護者の声にも、みつる保育園の職員への感謝の言葉が多く、保護者と園の良い関係を裏付けています。

2. 【保育方針に沿った保育・工夫】

●乳児（2F）と幼児（3F）のフロアは、壁が無く、低い子ども用ロッカーを活用して仕切り、全体が見渡せる空間作りになっています。その為、0歳～2歳児間と3歳～5歳児間の交流が自然に生まれ、異年齢保育の良さが体現されています。特に、年長児が3歳児の午睡の際に入眠時のお世話をし、お姉さん・お兄さんぶりを発揮し、思い遣る心や年長児としての自覚も促されており、保育内容は勿論のこと、保育室の工夫においても理念、基本方針に沿った、安心・安全・安定の環境作りが成されています。

3. 【活動の推進】

●園の保育の理念・基本方針を実現するため、裸足保育、マーチング、和太鼓、体操教室など「たくましく こころ ゆたかに」が実践されています。裸足保育では、身体能力の高まりや心身の発達の点からも様々な効果が期待されます。また、登園してきて靴下を脱ぎ、裸足になると「保育園モード」に切り替わり、退園時は靴下を履くと「おうちモード」へと切り替わる等、メリハリ効果も得られています。マーチング活動では、年齢ごとにリズム遊びから器楽合奏、発展させてマーチング活動へとつなげ、5歳児はリズムを身体で表現ができ、機敏な動作もできるようになります。集団の一員として責任感や協調性も養われ、みんなで1つのことに取り組み達成感を味わい、創造性の芽生えを培っています。和太鼓は日本の伝統文化であり、礼に始まり礼に終わり、協調性や向上心、表現力を身に付けています。どちらも、園の「礼節」につながり、また繰り返しの練習の中で忍耐力が養われ、格別な達成感を体感し、大きくなって様々な場面で「人間力」となることが期待されます。何より、保護者と園で子どもの成長を喜び合える取り組みは、園全体を感動に包んでいます。

◇改善を求められる点

1. 中・長期計画は、園長はビジョンとして示し、職員に都度、伝えています。今後、中・長期計画として、目標達成計画、人員計画、人材育成計画、働きやすい環境作り等を含んだ中・長期計画(3年～5年)の策定が望まれます。

2. 園に長年在籍し、経験値の高い幹部職員は、保育園運営等、頼りになる存在として園に貢献しています。しかし、知識・技術の高い幹部職員に何でも聞けば解決する風土は、中堅職員・初任職員のスキルアップを促す機会の希薄さや自らを緩和する傾向につながり、様々にギャップが生じることが懸念されます。幹部職員が行っている業務を中堅職員、初任職員に任せてみることにより、自覚を促し、やりがい、モチベーションアップにつながるため、職員教育の在り方について一考を期待いたします。

3. 事務の合理化、今後の課題とするICT化について、さらなる取り組みを期待します。ホームページのバージョンアップを具体的に検討中ではありますが、若い職員にも積極的に参加を促し、新たな視点を取り入れ、ニーズを抽出して生かし、歴史のある保育園にさらなる改良が成されていくことを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：みつる保育園

<評価に取り組んだ感想>

この度、5年ぶり2回目の第三者評価を受審しました。当初は8月に受審予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、4月から約2ヶ月半の間、緊急事態宣言の発令により登園を自粛する園児が多く、通常通りの園生活が機能しなくなりました。そんな中で、保護者の皆さまから利用者アンケートを頂くことも難しく、結果、受審日を11月に変更していただくことになりました。自粛が解除され、園児みんなが揃って登園したのは7月に入ってからです。4月入所の新入園児がようやくこの時期に慣らし保育を開始しました。このような時期での第三者評価受審でしたので、利用者アンケートの回収率を心配しました。結果、前回より回収率が低く、保護者会、保育参観などの諸行事が開催できず、保護者に向けて発信すべきことが届ききれていなかったことが伺えます。そうすると、ホームページの活用を考え、保護者の皆さまがホームページを通して、園だよりや給食献立を閲覧することができたり、園児の日常の保育の様子を写真や動画で見ることができたりと、ICT化を図っていくことが課題です。

職員自己評価につきましては、初任、中堅、ベテランを入り交えて4グループを作って臨み、最終的に園一つの評価表を作り上げていきました。取り組んでいく中で若手、中堅職員とベテランの職員の間で評価内容の理解の差が大きく、全職員が周知すべきことができていないことも分かりました。また、中・長期計画を書面化することにより安定した保育、人材育成、働きやすい職場環境、人員の確保等を明確に見通すことができ、早速、作成に取りかかりたいと思います。

5年ごとに第三者評価を受審しますが、原点に戻って振り返ることは忘れてはならないことを思い起こし、また、園全体の保育の質の向上につながる改善点を見出すことができます。今まで築いてきた園の歴史を守りつつ、新しい時代のニーズに応えていく使命を持ち、必要とされる、望まれる保育園を目指して取り組んで参りたいと思います。

<評価後取り組んだ事として>

1. ホームページ作成の依頼業者を変更し、内容のバージョンアップを目指し改善中です。4月より新しいホームページが完成する予定です。
2. 中・長期計画を策定するにあたり、現在、検討している最中です。
3. 現在ある各マニュアルを見直し、整備していく必要のあるもの、不足しているものを選出して作成にあたっています。(健康マニュアル、虐待防止マニュアル等)
4. 全職員で第三者評価を振り返り、保育士としての質の向上を目指して園内研修を行っていきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり